

6 事業推進に向けた計画の立案



平成 19 年度水道週間事業『絵画コンクール』入賞作品

6 事業推進に向けた計画の立案

6.1 事業メニューへの展開

『ビジョンの体系』として整理した施策については、個別の事業メニューを立案した上、事業メニュー間の関連性に考慮しつつ、着実に実施していきます。

～ みどり市水道事業の事業メニュー <上水道> ～

安全な水道

目標	施策	事業メニュー
① 施設の 維持管理	老朽施設の改修・更新	<ul style="list-style-type: none"> * 浄水場や配水池などの構造物・建築物の更新 (塩原浄水場や桐原配水池など) * ポンプ設備や薬注設備などの機械設備の更新 (大間々高区の送水ポンプ) * 各施設の電力盤や計装盤などの更新 * 水管橋の再塗装
	管路の整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> * 石綿セメント管の布設替 * 老朽管の布設替
② 施設の 耐震化	耐震診断・耐震補強の実施	<ul style="list-style-type: none"> * 施設の耐震化[計画・実施] (塩原浄水場や桐原配水池、鹿田山配水池など) <p>【老朽施設の改修・更新と合わせた実施】</p>
	耐震管路の採用	<ul style="list-style-type: none"> * 耐震管の採用推進に向けた調査・体制づくり * 管路システムの耐震化[計画・実施] <p>【管路の整備・更新と合わせた実施】</p>
③ 水質管理 の高度化	水源保全体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> * 水源監視体制の構築 * 水源に関する水質調査の強化 * 自然保護の推進 * 流域協議会への参画
	水質検査体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> * 水質検査・管理の強化 * 水質検査機器の更新 * 貯水槽水道に対する水質管理の強化
	浄水処理方法の改善	<ul style="list-style-type: none"> * クリプトスポリジウム対策の導入[調査・検討] * 浄水処理の適正化、膜ろ過設備の導入など
④ 危機管理 の強化	災害対策マニュアルの整備	<ul style="list-style-type: none"> * 災害対策計画の策定 (緊急体制・応急給水・復旧対策の整備) * 管理図面の再整理
	事故対策マニュアルの整備	<ul style="list-style-type: none"> * 被害想定を踏まえた事故対策計画の策定 * 設備・機器マニュアルの再整理
	災害対策施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> * 配水系統のブロック化 * 緊急遮断弁の設置 * 緊急貯水槽の設置 <p>【施設・管路の耐震化と合わせた実施】</p>

健全な水道

目標	施策	事業メニュー
① 運営基盤 の強化	整備・更新財源の確保	* 上水道・簡易水道を総合的に見た財政計画の見直し
	投資対効果の検証	* 業務効率化に向けた新技術の導入[調査・検討] * 業務効率化に向けた民間委託化の推進[調査・検討] * 業務高度化に向けた人員再配置計画の見直し
	技術継承の確保	* 技術講習会への参加 * 技術模擬訓練の実施
② 施設能力 の適正化	配水システムの再編成	* 管網解析に基づく配水計画の見直し
	施設の統廃合	* 水需要を踏まえた施設再配置計画の策定 【老朽施設の改修・更新と合わせた実施】
③ 維持管理 の効率化	日常業務の委託化	* 施設点検・保守業務の委託 * 施設運転・管理業務の委託
	IT技術の活用	* 中央監視(テレメータ)システムの更新 * 地理情報システムの機能拡張(データ追加・整備) * 管網解析システムの導入 * 財務会計システムの更新 * 料金調定システムの更新
④ 連携体制 の強化	水道広域化の検討	* 県営水道や近隣事業者との調整 * 上水道と簡易水道の経営統合[調査・検討]
	相互融通施設の整備	* 近隣事業者との連携に向けた施設整備

やさしい水道

目標	施策	事業メニュー
① 環境保護 の実現	漏水防止の強化	* 計画的な漏水調査の実施
	エネルギー効率の改善	* 効率的な浄水処理運転方法の導入[調査・検討] * 省エネルギー技術の導入[調査・検討] 【施設能力の見直しと合わせて整理】
	資源の有効活用	* 処理廃棄物の再利用[計画・実施] * 汚泥処理施設の更新
② サービスの 向上	窓口対応の充実	* 料金納入方法の多様化への対応 * インターネットを使った各種手続きの導入
	情報公開や広報活動の充実	* 広報誌やインターネットによる情報公開の推進 * 施設見学会や出前講座などの実施 * 水道週間を利用した啓発活動

安全な水道

目標	施策	事業メニュー
① 施設の 維持管理	老朽施設の改修・更新	<ul style="list-style-type: none"> * 構造物・建築物(浄水場や配水池など)の更新 * 各施設の機械設備(ポンプや薬注機器など)の更新 * 各施設の電気設備(電力盤や計装盤など)の更新 <p>※ 花輪／神戸浄水場の更新計画 …浄水機能を白倉沢浄水場へ移転した上、配水池化</p>
	管路の整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> * 老朽管の布設替
② 施設の 耐震化	耐震診断・耐震補強の実施	<ul style="list-style-type: none"> * 施設の耐震化[計画・実施] (座間浄水場など) <p>【老朽施設の改修・更新と合わせた実施】</p>
	耐震管路の採用	<ul style="list-style-type: none"> * 耐震管の採用推進に向けた調査・体制づくり * 管路システムの耐震化[計画・実施] <p>【管路の整備・更新と合わせた実施】</p>
③ 水質管理 の高度化	水源保全体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> * 水源監視体制の構築 * 水源に関する水質調査の強化 * 自然保護の推進 * 流域協議会への参画
	水質検査体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> * 水質検査計画の見直し
	浄水処理方法の改善	<ul style="list-style-type: none"> * クリプトスポリジウム対策の導入[調査・検討] * 浄水処理の適正化、膜ろ過設備の導入など
④ 危機管理 の強化	災害対策マニュアルの整備	<ul style="list-style-type: none"> * 災害対策計画の策定 (緊急体制・応急給水・復旧対策の整備) * 管理図面の再整理
	事故対策マニュアルの整備	<ul style="list-style-type: none"> * 被害想定を踏まえた事故対策計画の策定 * 設備・機器マニュアルの再整理
	災害対策施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> * 緊急遮断弁の設置 * 緊急貯水槽の設置 <p>【施設・管路の耐震化と合わせた実施】</p>

健全な水道

目標	施策	事業メニュー
① 運営基盤 の強化	整備・更新財源の確保	* 上水道・簡易水道を総合的に見た財政計画の見直し
	投資対効果の検証	* 業務効率化に向けた新技術の導入[調査・検討] * 業務効率化に向けた民間委託化の推進[調査・検討] * 業務高度化に向けた人員再配置計画の見直し
	技術継承の確保	* 技術講習会への参加 * 技術模擬訓練の実施
② 施設能力 の適正化	配水システムの再編成	—
	施設の統廃合	* 水需要を踏まえた施設再配置計画の策定 【老朽施設の改修・更新と合わせた実施】
③ 維持管理 の効率化	日常業務の委託化	* 施設点検・保守業務の委託 * 施設運転・管理業務の委託
	IT技術の活用	* 中央監視(テレメータ)システムの更新 * 地理情報システムの導入(データ整備) * 管網解析システムの導入 * 料金調定システムの更新
④ 連携体制 の強化	水道広域化の検討	* 上水道と簡易水道の経営統合[調査・検討]
	相互融通施設の整備	【危機管理を検討する中で対策を整理】

やさしい水道

目標	施策	事業メニュー
① 環境保護 の実現	漏水防止の強化	* 計画的な漏水調査の実施
	エネルギー効率の改善	* 効率的な浄水処理運転方法の導入[調査・検討] * 省エネルギー技術の導入[調査・検討] 【施設能力の見直しと合わせて整理】
	資源の有効活用	* 処理廃棄物の再利用[計画・実施] * 汚泥処理施設の更新
② サービスの 向上	窓口対応の充実	* 料金納入方法の多様化への対応 * インターネットを使った各種手続きの導入
	情報公開や広報活動の充実	* 広報誌やインターネットによる情報公開の推進 * 施設見学会や出前講座などの実施 * 水道週間を利用した啓発活動

6.2 事業高度化へのさらなる取組み

■ 事業の進捗と効果の把握 ■

本ビジョンで整理した事業の実施状況は、施設の運転状況や統計データの推移などの様々な観点から、定期的に確認しておくことが大切です。とくに、本ビジョンの内容と実施状況が大きく離れていることが懸念される場合、事業の推進に障害となる問題が起きている可能性もあるため、その原因を追求・把握しておくことが必要となります。

さらに、事業の進捗管理においては、その進捗状況と併せて効果を把握しておくことも重要であり、事業の途中段階で効果を見直す場合は、厚生労働省作成の水道事業ガイドラインの業務指標などを活用していきます。

■ 料金体系の見直し ■

水道料金は、費用負担の公平性や妥当性を確保するとともに、社会経済情勢の変化に対応しながら、工事コストの縮減や事務処理の効率化などの経費節減に積極的に取組み、水道利用者の理解を得ながら、慎重に検討していきます。

■ 地域水道ビジョンの見直し ■

本ビジョンは、概ね20年後を見据えた上での、平成20～29年度の10年間を計画期間としています。

しかし、計画の基礎となる人口や給水量については、現時点で想定される要因(人口動態や水需要)に基づくものであり、今後の社会情勢の動向によっては大きく変化する可能性もあります。さらに、行政改革やさらなる経営効率化への要求など、事業運営に影響を及ぼすような要因も考えられ、事業の途中段階における計画の見直しは不可欠なものとなります。

計画を見直す際には、計画の策定(Plan)～事業の推進(Do)～達成状況の確認(Check)～改善策の検討(Action)の連鎖である「PDCAサイクル」を実施することが必要です。このサイクルにより、当初計画の目標や事業推進における問題点、事業の有効性などを確認しながら、計画のさらなる推進や見直しを進めていきます。

～ PDCAサイクルによる事業の見直し ～

